

## 高い国保税、引き下げて

今年度、平均10%の値上げがされた国民健康保険税、「高い税金がまた上がった。もう払えない」などの声があふれています。滞納をどうしようかとの相談も、増えてきています。

09年度決算を見ても、国保税の収納率は現年度で84.9%と、前年の85.24%からさらに下がっています。値上げになった今年度は、さらに落ち込む見通しです。滞納分を入れた収納率は67.5%で、未収額は25億円にものぼりません。まさに増税 滞納 収納率低下 赤字 増税の悪循環です。

## 一般会計から国保に1人当たり1万円 総額5億円の繰り入れを

年度	赤字額	補てん方法
H18	0	—
H19	5.07億円	支払準備基金
H20	5.43億円	支払準備基金
H21	4.90億円	一般会計より
H22	5億円?	増 税

今年の増税は、どうしてもやむを得なかったのでしょうか？これまで国保会計は、3年連続の赤字でしたが、その補てんを2年間は「支払準備基金」から出し、基金が底をついた昨年は、一般会計から繰り入れたのです。今年も、5億円の繰り入れをすれば、増税を避けることが出来たのです。

繰り入れは、決して不当な方法ではありません。厚生労働省の調べによれば、一般会計から国保会計への繰入額の全国平均は、1人当たり10,134円とことです。これを鈴鹿市に当てはめれば、約48,000人分 = 4億8,643万円で、5億円ほどの繰り入れは全国並みの水準なのです。言い換えれば、全国どこの自治体でも、国保に一般会計から援助することは必要だと考えていて、「今年は繰り入れはしない」と言う鈴鹿市の方が、異常なのです。

# 市税の延滞金、1年で1億1千万円

税金を滞納していると、「延滞金」という罰金のようなものが上乘せされます。その金額は「年利14.6%」という、サラ金並みの高さです。何年も滞納のままでいると、税金よりも延滞金の方が多くなって、ますます支払いが出来なくなります。

昨年度の鈴鹿市の決算を見ると、この延滞金収入が一般会計で8,084万円、国保会計で3,219万円、合わせて1億1,303万円にも上ります。延滞金是一种の「罰金」ですが、鈴鹿市にはこんなにも、悪質な「払うべき税を払わない」市民がいるのでしょうか。むしろ「払いたくても払えない」生活の困難をかかえた市民が増えていることの反映ではないでしょうか。

昨年为国保税収入のうち滞納分は約1億円、その延滞金は3,090万円という高さです。私は「せっかく苦労して払っても延滞金に多く回され、本税が減っていかない人も多い。延滞金分は本税に充てて滞納金を減らし、合わせて税の収納率を上げる方が、市民も市も得になるではないか。」と改善を求めました。国保担当者は「ありがたい提案です」と答えました。

---

## 「コンプライアンス」とは何ぞや？

市は11月から「コンプライアンス推進大綱」を施行するとのことです。説明によると、コンプライアンスの定義は次のとおりです。「市民に信頼される市政運営を推進するために、取り巻く環境の変化を敏感に察知し、法令や社会的規範の遵守のみならず、その背後にある社会的要請を探知し、それらを常に見据えながら創造的かつ自律的に職務を遂行し、組織が一体になって、生き生きと活動すること」

簡単に言えば「法令やルールをきちんと守る」という当たり前のことなのですが、鈴鹿市では生活保護不正支給事件などで、当たり前のことが出来ていなかったことが明らかになりました。そこで「コンプライアンス宣言」をしたのですが、果たして市民に信頼される行政になれるかどうか？

## おかしいことは「おかしい」と言えることが大事

10月の議員全員協議会で当局からこの説明があった時、私は次のような意見を出しました。

1. かつて日本で初めて「60歳以上の老人医療無料化」を行なった岩手県沢内村（現和賀町）の村長は、「これは法令違反だ」の非難の声に対して、「法令には違反かもしれないが、日本国憲法25条（生存権の保障）には違反していない」と、堂々と答えた。この有名な話を参考にされたい。

2. 生活保護不正事件が起こった当時、担当課の周辺の職場の職員は、「どうもおかしいぞ」「いつも特定の人物が窓口でゴネている」などと気が付いていたし、多くの職員が見て知っていたという。しかし、自分の権限や責任ではないので、だれも言わずにいた。それが大事件になっていったのであり、ある日突然に発覚したものではない。「コンプライアンス」を言うなら、それは部署や権限を超えても、おかしいことは「おかしい」と、誰もが率直に言える職場にすることが肝心ではないか。

---

## 深伊沢小体育館の改築、来年施行

私の地元の深伊沢小学校の体育館が、いよいよ来年改築されることになり、小学校で地区の役員さん方に説明会がありました。新しい体育館は、老朽化した今の体育館を取り壊して、同じ場所に新築するもので、面積はおよそ2倍に広がります。また合わせて、不足している教室2つ分も、体育館と一体の建物として建設されます。

説明の中では、社会体育への利用のための入口やミーティングルームも出来ること、来年の入学式後から次の春の卒業式までの間の工事となり、10ヶ月ほど使えなくなること、また必要な備品類も整備することなどが話し合われました。完成が楽しみです。

---

## 山の頂上に、一面に「鹿のフン」

先月中旬、年金者組合の山歩会の皆さんとともに、鈴鹿の山に登りました。いなべ市の宇賀溪から竜ガ岳（1099m）へ、登りは裏道を溪谷沿いに歩き、帰りは石樽峠から砂山経由で戻りました。晴天に恵まれ、頂上での見晴らしも良く、心地よい疲れを味わいました。頂上は一面の笹原が広がっていますが、何か変な匂いがします。見ると、そこら中に鹿のフンが落ちていて、うっかり座ることも出来ません。「入道岳の上も、こんなになっているよ」とも聞き、驚きました。鹿が異常に繁殖しているのか、頂上にまで来るようになったのか。生態系がおかしくなっていることを実感しました。

ずいそう



## ふらつくばかりの日本外交

尖閣諸島の領有権問題で、中国の一方的な言い分に対して、日本政府はなんら有効な態度を示せず、受身に回ってばかりである。尖閣諸島が日本領土であることは、歴史的にも法的にも明白であるのに、なぜこんなゴタゴタが治まらないのだろうか？それは、日本政府が中国政府や国際社会に対して、日本の正当性について堂々と主張する努力をしてこなかったからである。

この問題は、私が学生の時の1972年に、当時の毛沢東政権が急に「尖閣諸島は中国のものだ」と言い出し、それを受けて毛沢東派の学生が大騒ぎし、大論争をしたので、よく記憶している。即座に日本共産党が見解を発表して、毛沢東派の言い分に事実と道理で反論し、決着がついたのだった。

今また同じことを蒸し返してきた中国に、なぜ日本政府は正面から立ち向かえないのか？一言で言えば、「主体性」がないからである。相手の出方を気にしているだけで、自分の主張を言わずにコソコソ立ち回って、うまく収めようとする卑屈な態度が、外国からなめられているのである。

### 主体性のない態度が、世界から軽く見られる

これは、対中国だけでなく、アメリカにも「沖縄の基地を撤去せよ」と一言も言えず、そのくせ「思いやり」予算は要求されるだけ出す。旧ソ連・現ロシアにも「千島列島は日本領土だ」と言えず「四島だけ返して」としか言ってこなかった。北朝鮮にも「制裁だ、圧力だ」と勇ましく叫ぶだけで外交ルートでは打つ手を持たない。などなど、その主体性のなさは世界から笑われている。私は日本人の1人として、ほんとに情けない。

いくら経済力で世界第何位だといばっていても、その地位にふさわしい振る舞いがなければ、世界の人々からの尊敬は得られないと思う。そして、その経済力にも陰りが見えてきた今、日本はいったい何を世界に誇るのか？民主党や自民党の政治家には「道理」や「大義」という言葉はないのだろうか？

さらに憤りを感じるのは、そんな主体性のない連中が、「共産国はムチャを言うてくるから信用できない。日本の共産党も同類」などと公言することだ。私はこう言いたい。「ちょっと聞きますが、皆さんが何でもムチャを聞いているあのアメリカは、共産国ですか？どこが民主国家なんですか？」